

世界初！※1 F1開催コースを走るEVアトラクション 「Circuit Challenger」2016年3月登場！

レーシングドライバー佐藤琢磨選手をアドバイザーに迎えマシンを開発
子どもから大人まで“究極のドライビング”を体感できる 新感覚アトラクション！！



鈴鹿サーキットは2016年3月19日(土)、F1日本グランプリを開催する国際レーシングコースを舞台に、先端技術を搭載したEVマシンを操り、その運転テクニックが様々な視点から解析された「走行結果」を残すことのできる新感覚のアトラクション「Circuit Challenger」をオープンいたします。

鈴鹿サーキットでは、小さなお子さまでも乗り物を操り、チャレンジすることで「達成感」を味わうことのできるアトラクションを独自に開発し、運営しております。

この「Circuit Challenger」は、「子どもの頃からモータースポーツの楽しさに触れることで、未来のモビリティファンになっていただきたい」という思いを込め、レーシングドライバーであり父親でもある佐藤琢磨選手をプロジェクトアドバイザーに迎え開発いたしました。

未来のレーシングマシン開発の世界をテーマに、乗車するお客様自身がテストドライバーとなり新感覚のEVマシンを操りながら本物のマシン開発を想定したミッションにチャレンジするアトラクションです。

乗車後に発行される自分の運転テクニックが解析された「走行結果」は、走行毎に異なる緻密な評価を実感でき、ドライバーのチャレンジ精神を刺激します。

■ Circuit Challenger 5つの特徴

①世界最高峰の自動車レース『F1グランプリ』の舞台でもある、鈴鹿サーキット国際レーシングコースを走ることのできるアトラクション ※走行コースは東コース

②未来のレーシングマシン開発がテーマのアトラクション

未来のレーシングマシンテストドライバーとなった参加者は、開発現場をイメージした内装のエントランスで、チームスタッフのガイダンスを受けた後、レーシングコースでの走行テストに臨む。

③アクセル・ブレーキ・シフトチェンジをハンドルに集約し、小さなお子さまでも繊細な操作が可能に

EVの特性を活かした「ドライブ・バイ・ワイヤ」方式※2によりマシンの運転操作をハンドルに集約。通常は足で操作していたペダルをハンドルに設置することで、ペダル操作では足が届かない小さなお子さまでも簡単に操作ができる仕組みを実現。

④アクセル・ブレーキの操作に加え、4段階のシフトチェンジを搭載

レーシングドライバーのようにマシンを操る要素を体感できるようにシフトを設け、より繊細な速度調整を可能に。状況に応じたシフトチェンジはミッションクリアの鍵となる。



アトラクション エントランス ※イメージ



EVマシンのハンドル

株式会社 モビリティランド

東京オフィス 〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-6-20
鈴鹿サーキット 〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町 7992

TEL(03)3278-0731 FAX(03)3278-0733 E-mail: media@mobilityland.co.jp
TEL(059)378-1111 FAX(059)378-4568 URL <http://www.suzukacircuit.jp/>

**⑤マシンにはドライバーの細かな運転技術を記録する機能を搭載
走行後には運転テクニックが解析された『走行結果』を持ち帰ることができる**

走行中の運転テクニックが様々な視点から解析され、スタート、アクセル操作、ハンドリング、シフトチェンジなどの評価項目から総合的にレベルが判定される。走行後には自分の走りが数値化された「走行結果」を持ち帰ることができる。テストドライブの結果は毎回異なる緻密な評価として実感できるため、次回に向けたチャレンジ精神を刺激する。



「走行結果」確認シーン ※イメージ

- ※1: 小学生以下の子どもが、F1グランプリを開催するレーシングコースを走行できるEVアトラクション(当社調べ)
- ※2: 従来の機械式に置き換わり、物理的なケーブルではなく電気信号でアクセルを制御するシステム

■プロジェクトアドバイザー: 佐藤琢磨 レーシングドライバー (インディカー・シリーズ A.J.フォイト・レーシング)



1977年、東京都生まれ。高校時代から自転車競技を始め、インターハイ、全日本学生選手権で優勝。自転車競技から一転、1996年にレーシングカートデビュー。

1997年、鈴鹿サーキットレーシングスクール(SRS)首席で卒業。SRS-F スカラシップを獲得してイギリスF3へ挑戦。2001年日本人初のシリーズ総合優勝を果たし、翌年F1デビュー。2004年にはアメリカグランプリにて、表彰台に上がる快挙を成し遂げる。2010年からは北米のインディカー・シリーズに参戦。2013年には、第3戦ロングビーチにて悲願の初優勝を遂げる。この勝利はアジア人ドライバーとしても史上初のものとなり、更に世界最高峰のレースと言われるF1とインディ両方の表彰台に上がった経験のある唯一の日本人ドライバー。2015年はA.J.フォイト・レーシングよりインディカー・シリーズに参戦中。第8戦デトロイトにて2位表彰台を獲得。

佐藤琢磨選手コメント:

「小さな子どもから大人まで、誰もが気軽に、かつ本物志向で楽しめるように工夫をしました。これまでのゴーカートとは違い、シフトやハンドルの操作によって、モーターのパワーを、いかに走りに繋げられるかをポイントにチューニングしています。アトラクション全体を通してチャレンジする楽しさを実感できる仕上がりになっていると思いますよ。まさに『Circuit Challenger』ですね。」

■アトラクション車体概要

- ・オープン予定日: 2016年3月19日(土)
- ・走行コース: 国際レーシングコース(東コース:2.243km) 1周
- ・乗車時間: 約7分
- ・車両台数: 70台
- ・車両動力: モーター: ミツバ製(SRモーター) / 最高出力:4.3kW
バッテリー: 東芝製SCiB
- ・車両サイズ: 全長:2.5m 全高:1.0m 横幅:1.3m
- ・最高速度: 30km/h
- ・乗車定員: 最大3名
※小学5年生～(運転可)
※小学校3年生～4年生(中学生以上の同乗で運転可)
※2歳～小学校2年生(条件付で同乗可)
- ・料金: 未定

■協賛企業(順不同)



株式会社 モビリティランド

東京オフィス 〒104-0028 東京都中央区八重洲 2-6-20
鈴鹿サーキット 〒510-0295 三重県鈴鹿市稲生町 7992

TEL(03)3278-0731 FAX(03)3278-0733 E-mail: media@mobilityland.co.jp
TEL(059)378-1111 FAX(059)378-4568 URL http://www.suzukacircuit.jp/